神奈川県立国際言語文化アカデミア紀要発行にあたって

神奈川県立国際言語文化アカデミア所長
三 國　隆 志

平成 23 年 1 月に神奈川県立国際言語文化アカデミアが開所して約 1 年が経過しました。アカデミアは神奈川県における多文化共生を推進するにあたって、外国語の研究や研修、外国籍県民に資する事業や日本語教授法の指導、異文化理解に資する様々な講義を展開する学術機関たるべく努力してまいりました。幸い、短期間の間であっても受講者の数は少しずつ増加し、受講者からの授業評価には高いものがあります。

しかしながら、研修や実践、教室における講義の土台は、なんといってもアカデミアの講師たちの持つ学術上の知識や研究能力です。大学に準ずる高等教育機関として紀要や研究報告書を出すのは当然のことですが、私たちが目指すのは、専門家だけが読めるような論文集ではありません。多様な専門分野を多くの方々にできるだけわかっていただき、将来的に解決すべき重要な問題を意識していただくには、さまざまな研究方法や記述方法が存在します。そこで、私たちは通常の専門的論文だけではなく、特殊の報告書や統計上の分析なども含め、内容の質を維持しながら、様々なアプローチで多文化共生や異文化理解に関する記述を掲載することにしました。

21 世紀に入って気づくことは、世界のますますの複雑化、地域紛争の頻発、自然災害が引き起こす未曾有の不安と恐怖が人々の感情の鈍麻を誘っていること、現状を正視することの忌避、固有の民族的な歴史が原因する異文化への偏見、精神的であれ物理的であれ異質なものに対する排他的な暴力が顕著であることです。これを避けて人間的な道を辿るためには他者への人間的理解、宗教への寛容、民族的差別と性差別を拒否する強い意志が必要です。そのための多文化理解であり、異文化理解であるべきでしょう。アカデミアが多文化共生のための理論と実践に資する機関になることを、私たちは願っています。民族や国家を超えて人間同士に通有する普遍的な価値観や真理が今ほど求められている時代はありません。この紀要のベクトルがそのような人間的な道への方向を確実に指すものであれば、これほど嬉しいことはありません。